

■進捗状況

中項目 4 - 13

公開日：2026年 6 月

分野	項目名
ダイバーシティ	スーパーグローバル大学創成支援事業の継続・発展
内容	
「スーパーグローバル大学創成支援」の事業終了後も各種取り組みを継続し、多様性のある教育環境の構築を着実に進める。グローバル・モビリティとして外国人留学生の受け入れおよびサポートの充実等、グローバル・ラーニングとして国際的に通用する教育プログラムの整備および外国人教員の増加等、グローバル・アドミニストレーションとして教育と研究を支える大学運営のグローバル化等、またグローバル・コアとして大陸別に戦略的グローバルネットワークを形成し、これらをグローバル・コア・センターが主導し、目標を具体化し推進する。	
取組状況	
2021年度	昨年度に第2回中間評価を受け「S」の評価を獲得した。前回の第1回中間評価での「S」評価に続き、本学の着実な取り組みが高く評価された。 ただし、コロナ禍にあって、昨年度から外国人学生の受入れや本学学生の海外派遣がままならない状況が続いている。受入れや派遣については、諸情勢が好転し、可能になったところから再開した。他方で、オンラインによる国境を越えた教育交流プログラムへのニーズが高まっており、海外在住の学生に授業や学習の機会を提供するだけでなく、海外諸大学との学生交流や日本語教育等が提供できるよう検討を進めた。
2022年度	2 回目の中間評価で「S」を獲得したことを受け、9 年目となる本年度は、次の最終年度に向け、外国人学生の募集・受け入れや本学学生の派遣について、オンラインを活用した「国際協働オンライン学習プログラム（COIL）」の活用などにより積極的に教育交流を推進した。 このCOILは文部科学省が昨年度に形成し、本学も複数のプロジェクトに参画している「大学の国際化促進フォーラム」のプロジェクトにおいて、関西大学と共にモジュール（科目群）の提供を開始した。また、プロジェクト「国際交流プログラムの効果の客観的評価テスト開発及びその普及」では、本学は連携校として採択（幹事校・広島大学）され、今後国内をはじめ各大学・諸機関と幅広く連携し展開していく予定である。
2023年度	本年度は、コロナ禍で減少した外国人学生の募集・受け入れや本学学生の派遣などの再度の活性化を目指した。具体的には、マレーシア・シンガポール・台湾・香港・韓国等の海外での入試説明会の開催、バンガロールのデリー・パブリック・スクールとの連携による推薦学生の受入、また海外に拠点を置く日本語学校と連携によるベトナム人学生のリクルートに取り組んだ。 ・海外交流校へのオンライン授業提供としては、共通科目「留学のための国際理解」において、フィリピン・イースト大学と共同実施などに取り組んだ。その他、本学が参画している「大学の国際化推進フォーラム」のプロジェクト「国際協働オンライン学習プログラム（COIL）」について、関西大学と共にモジュール(科目群)を提供した。 ・交流校や企業等と、教員・研究者に関するクロスアポイントメント制度によって、外国人教員等多様な教育研究人材を確保し、共通科目「留学のための国際理解」「平和と人権」「環境と開発」「中国池田研究事情」などの授業を実施した。
2024年度	・文部科学省より事後評価が公表され、本学が「タイプB：グローバル化牽引型」に採択され取り組んだ「人間教育の世界的拠点の構築 ― 平和と持続可能な繁栄を先導する『世界市民』教育プログラム」は、5 段階評価（S～D）のうち 2 番目に高い「A」の評価を得た。 ・キャンパスの多様化に向けた取り組みとして、外国人留学生を2030年度までに、1 学年200人（学部生）の受け入れをグランドデザインに掲げている。本年度は、海外での入試説明会の実施、発展著しい地域の高校との連携による推薦入学制度、海外からの編入学などを進めた。 ・学生の海外派遣については、「国際協働オンライン学習プログラム（COIL）」を活用した。さらに、文部科学省「大学の国際化促進フォーラム」におけるプロジェクト「BEVI（成果の分析）」の拠点として、海外派遣学生の研修前後の成果を測定し、海外留学・研修の充実に努めた。

2025年度	・英国の大学評価機関クアケアレリ・シモンズ（QS）による「QS世界大学ランキング2026」において、総合で「1400位+」にランクインし、国内順位では43位タイとなった。 ・キャンパスの多様化に向けた取り組みとして、外国人留学生を2030年度までに、1 学年200人（学部生）の受け入れをグランドデザインに掲げている。本年度は、海外での入試説明会の実施、発展著しい地域の高校との連携による推薦入学制度、海外からの編入学などを進めた。 ・学生の海外派遣については、「国際協働オンライン学習プログラム（COIL）」を活用した。さらに、文部科学省「大学の国際化促進フォーラム」におけるプロジェクト「BEVI（成果の分析）」の拠点として、海外派遣学生の研修前後の成果を測定し、海外留学・研修の充実に努めた。
--------	---

事業計画4-13-34

達成度 A・・・達成 B・・・一部達成 C・・・未達成

計画名	グローバル・モビリティ ― 多様な価値観が集まるグローバルキャンパス構築					
実行開始年度	2021年度					
年度達成度	2021年度	B	2025年度	A	2028年度	
	2022年度	A	2026年度		2029年度	
	2023年度	A	2027年度		2030年度	
	2024年度	A	最終目標からの達成度		B	
2026年度以降	取り組みを「継続」する。					

事業計画4-13-35

計画名	グローバル・ラーニング ― 国際的に通用する教育プログラムの充実					
実行開始年度	2021年度					
年度達成度	2021年度	A	2025年度	A	2028年度	
	2022年度	A	2026年度		2029年度	
	2023年度	A	2027年度		2030年度	
	2024年度	A	最終目標からの達成度		B	
2026年度以降	取り組みを「継続」する。					

事業計画4-13-36

計画名	グローバル・アドミニストレーション ― グローバル化に対応したマネジメントの整備					
実行開始年度	2021年度					
年度達成度	2021年度	A	2025年度	A	2028年度	
	2022年度	A	2026年度		2029年度	
	2023年度	A	2027年度		2030年度	
	2024年度	A	最終目標からの達成度		B	
2026年度以降	取り組みを「継続」する。					

事業計画4-13-37

計画名	グローバル・コア ― 戦略的グローバルネットワークの形成 ※4-12-33と同様					
実行開始年度	2021年度					
年度達成度	2021年度	B	2025年度	A	2028年度	
	2022年度	A	2026年度		2029年度	
	2023年度	A	2027年度		2030年度	
	2024年度	A	最終目標からの達成度		B	
2026年度以降	取り組みを「継続」する。					